



アワル通信

2020.9.1 発行 第 221 号

『with コロナ』

「物事なるようにしかならない」ということは、當にわかっていることだが
まだみぬ未来を勝手に想像し不安がる。

と、思いながらも、なるようにしかならんも、どうもおかしな感じがする。
結局のところ、なるようにしかならんのだが
なるようになるよう、何かをしなければならないとも思う。

で、終わりのない禪問答が、ぼくの思考の中で悶々と続く。
要はハッキリとした答え、というよりも正解?というよりも正しさ?
そんなものが欲しいのか?

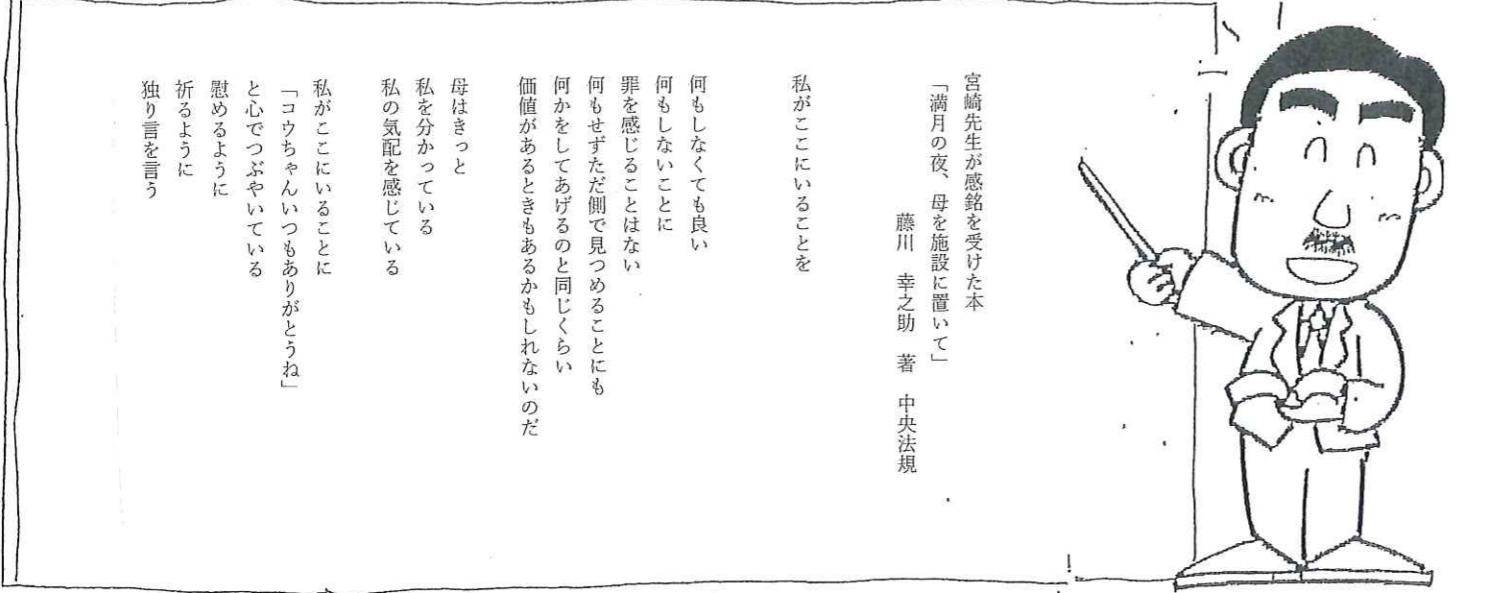
が、というよりも、搖るぎない覚悟が欲しいだけなのだろう。
馬鹿は死ななきや治らないとはよく言ったが
この性分、一旦どこかでリセットしなければ治らんのは
当の本人が一番よく解っている。

これもまた諦めるしかないのか。
しかし、この性分が幾多の困難をくぐり抜けてきたのも事実である。

諦めると言うよりかは、そのことが解っただけでも、この人生での収穫としよう。
そう考えると、残り少なくなつて来た人生だが、少し控えめに生きた方が
ちょうどいいのかもしれない。

感謝

ア　ウ　ル　宮　崎　直　人



〈今月の出来事〉

〈実習生〉

今月、実習生はありません。

○誕生会

○七夕

○野菜収穫(in スタッフ宅)

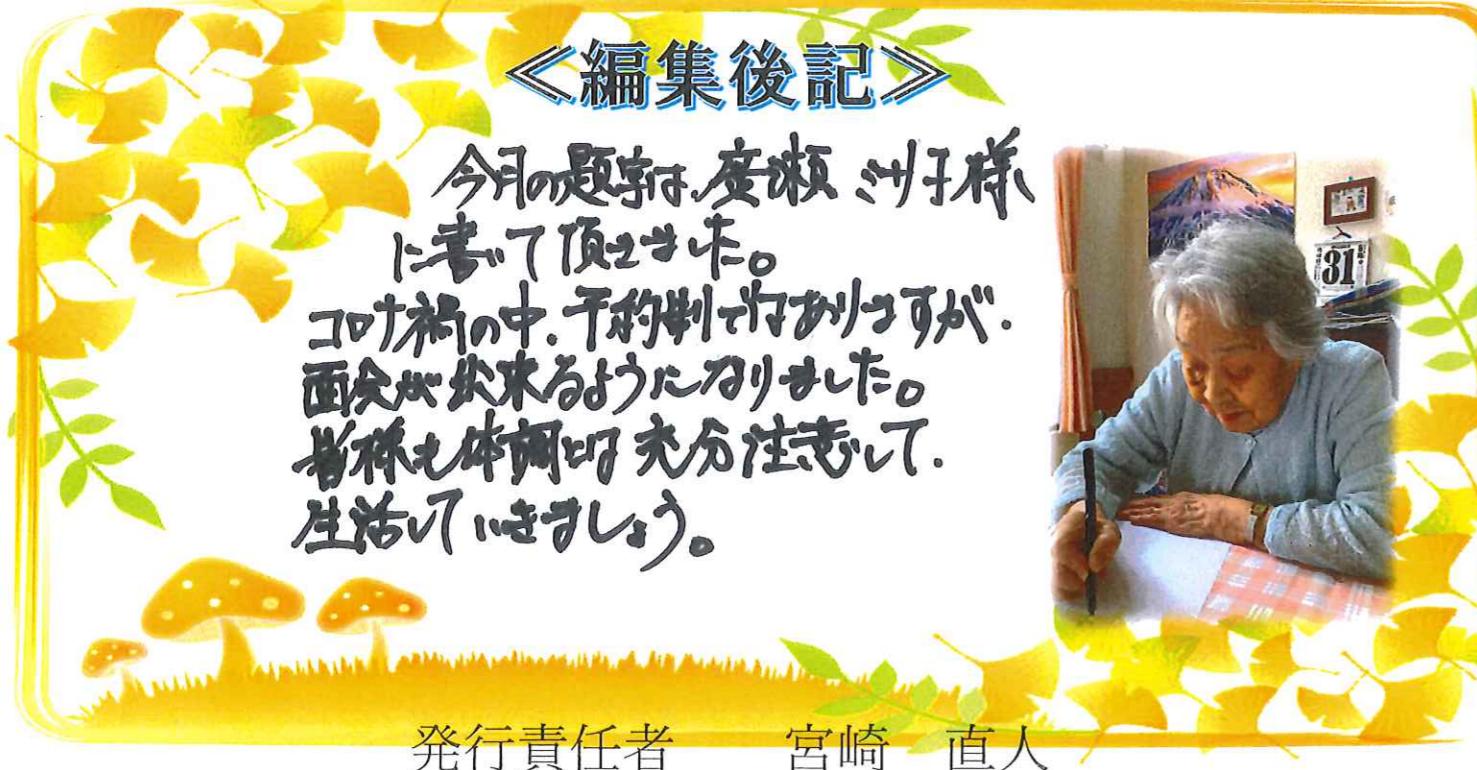


〈編集後記〉

今月の題字は、皮瀬 沙子様
に書いて頂きました。
コロナ禍の中、干鈴判ではありませんが、
面会が状況のようになりました。
皆様も体調には充分注意して、
生活ていきましょう。



発行責任者 宮崎 直人



Happy

birthday

ニヌ 恵子様

8月3日

87

歳

七夕(8月7日)

願い事ねへ
長生きかなへ



健康で
過ごせますように



よつば



野菜を収穫

in スタッフ宅



あら。
いっぱい
とれたね。
うれしい。

